

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「だいじな ことを おとさないように 聞こう」 教材名「ともだちは どこかな / 【コラム】声の 出し方に 気を つけよう」

2 単元の目標

共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（〔知識及び技能〕(2)ア）

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。（A(1)エ）

探したい対象の特徴を、順序立てた説明から聞き取る学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。（A(1)エ）	①探したい対象の特徴を、順序立てた説明から聞き取る学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

探したい対象の特徴を、順序立てた説明から聞き取る。この教材では、聞き取った条件と質問の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

特徴ごとに欄を分け、分かったこととまだ分からないことを区別する。個人の容姿をからかう題材にしない。想定する難しさは、途中の条件だけで決めて最後まで聞かない。評価では、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えているかを、聞き取った条件と質問の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○教師作成の人物カードを用い、話し手が特徴を順に知らせる。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	3～4 （本時）	○教師作成の人物カードを用い、話し手が特徴を順に知らせる。聞き手は共通点と違いをメモし、絞り込めない条件を質問する。話し手は聞き返しを受けて、声と順序を調整する。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	5	○聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (3/5)

(1) 本時の目標

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。(A(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「似た特徴があるとき、次に何を聞けば一つに決められますか」 【めあて】探したい対象の特徴を、順序立てた説明から聞き取る。 〈予想される児童の反応〉 ・色だけでは同じ人がいる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「似た特徴があるとき、次に何を聞けば一つに決められますか」 教師作成の人物カードを用い、話し手が特徴を順に知らせる。聞き手は共通点と違いをメモし、絞り込めない条件を質問する。話し手は聞き返しを受けて、声と順序を調整する。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・色だけでは同じ人がいる。 ・持ち物も聞けば確かめられる。	特徴ごとに欄を分け、分かったこととまだ分からないことを区別する。個人の容姿をからかう題材にしない。 想定する難しさ：途中の条件だけで決めて最後まで聞かない。 評価では、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えているかを、聞き取った条件と質問の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 聞き取った条件と質問の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・持ち物も聞けば確かめられる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「似た特徴があるとき、次に何を聞けば一つに決められますか」。中央は、聞き取った条件と質問の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

